

農 村 振 興 局 長 賞

1. 地区概要

参加団体名：岐阜県安八郡輪之内町 輪之内本戸土地改良組合
 表彰地区名：輪之内本戸地区
 事業名等：経営体育成基盤整備事業
 工期：平成16年度～平成22年度
 主要工事：農道整備L=2.77km、暗渠排水A=21.3ha、排水路L=5.11km、パイプラインL=5.04km
 区画整理A=22.5ha

2. 活動の概要

当組合は、「経営体育成基盤整備事業」を契機に農業生産法人を設立し、農地の利用集積を積極的に図り土地利用型（水稲＋麦）と、都市近郊型（水稲＋野菜等）の複合経営を目指し、生産性、収益性の高い農業の展開に大きく寄与している。

平成19年度には、当組合が中心となり減農薬と化学肥料を30%削減した「ぎふクリーン農業」の登録を行うなど、環境への配慮と共に食の安全・安心を確保する努力をしている。

また、自然保護としては、ほ場整備地内の生態系の保護・保全・環境に配慮した事業を効果的に推進してきた。その他、地域の景観づくりや子供達への課外事業、文化伝承活動を行うなど、本戸の地域に果たす役割は非常に大きい。

3. 受益地区における農家及び担い手の状況

(1) 受益地区における農家数の状況

区 分	事業実施前	現 在
総農家数	54戸（0戸）	54戸（0戸）
うち専業農家数	1戸（0戸）	1戸（0戸）
うち兼業農家数	53戸（0戸）	53戸（0戸）
認定農業者	0人	0人
生産組織等（法人含む）	0組織	1組織

※（ ）は、担い手農家数

(2) 農用地の流動化状況

項 目	事業実施前	現 在	目 標
受益面積	23.4ha	22.5ha	
担い手等の利用集積面積	1.9ha	22.1ha	22.5 ha
①利用権設定面積	0.0ha	0.0ha	22.5 ha
②受託面積	0.0ha	22.1ha	0 ha

4. 農業経営状況

区分 作物名	事業実施前（10a当たり）			現 在（10a当たり）		
	労働時間	反 収	生産費	労働時間	反 収	生産費
水稲	58.0h	436kg	194,284円	16.0h	500kg	81,495円
大豆				17.3h	180 kg	63,643円
小麦				3.9h	300 kg	54,892円

区分 作物名	作 付 面 積 の 推 移		
	事業実施前	現 在	目 標
水稲	14.0ha (1.9ha)	10.6ha (10.6ha)	10.6ha (10.6ha)
小麦	0.0ha (0ha)	10.4ha (10.4ha)	10.4ha (10.4ha)
大豆	0.0ha (0ha)	9.5ha (9.5ha)	10.4ha (10.4ha)
トマト	0.5ha (0ha)	0.4ha (0ha)	0ha (0ha)
その他	8.9ha (0ha)	1.2ha (1.2ha)	1.5ha (1.5ha)
計	23.4ha (0ha)	32.1ha (31.7ha)	32.9ha (32.9ha)
土地利用率	100%	142%	146%

※ () は、担い手農家等の作付面積

5. 営農推進の状況について

(1) 栽培技術関係

事業実施以前は、用排水兼用水路であったため、地域全体が一斉に入水し代掻き作業などが分散できなかったため、ほとんどの農家が機械を保有し作業を行っていた。

営農組合設立当初は、各農家の機械の持ち寄りにより対応していたが、平成18年度は水稲、平成19年度小麦栽培を契機に大型機械を導入し作業の効率化を図った。

また、乗用管理機導入により、機動的な適期防除が可能となった。

平成20年度より、大豆の栽培を行い2年3作体制にはいった。

(2) 転作関係の状況

①整備後の転作の状況（現況）

転作面積 10.4ha（事業実施前の転作面積9.4ha）

②転作作物名と作付面積：小麦10.4ha、大豆9.5ha

③新規作物等導入状況：ナバナ0.3ha、ブロッコリー0.4ha、伏見甘長0.4ha、
紅東（サツマイモ）0.1ha

④転作や新規作物の導入にあたって、特にPRすること。

- ・事業実施により、大区画汎用化水田となったため、水稲、小麦、大豆の2年3作体系を目指し、平成20年度より大豆の作付けを開始し、食糧自給率向上と農地の高度活用に寄与している。
- ・経営的には、経営所得安定対策における過去の生産実績がない為に、固定払交付金が受けられず、厳しい状況にあるが水稲・麦・大豆を全て一元経理により実施することにより、効率的かつ省力による低コストを実現している。

また、既存の園芸品目の他、新たにモデルケースとして軽量野菜（ナバナ、伏見甘長）を導入し、交付金に依存する体質の脱却を図ると共に、地域高齢化の生きがいや女性の雇用、情報交換や相互理解の場となっている。

(3) 農産物の加工、流通、販売などに向けた取り組み

地場産業である大豆（ふくゆたか）の「おから」を使用して地域の特産品として健康食品「おからドーナツ」の開発を進めている。また、サツマイモを生産し、スイトポテトケーキの開発も進めている。

6. 環境に配慮した取り組み

当地区では野鳥の生息が多く、平成18年度には土地改良組合が巣箱を作り、小学校の子供達の手で地区に隣接する輪中堤の桜並木に巣箱を設置し、野鳥の調査や保護活動をして「ふれあい学級」として課外事業に貢献している。また、地区内の水路には、カワバタモロコやメダカ、ギンブナなどの魚

やカエル、水生昆虫が生息しているため、ほ場整備水路（コンクリート柵板水路）に工夫をこらし生息向上のため、植生帯や魚道、魚が棲める柵板等の新技術を導入し、魚など生物の生息拡大に努めている。このため、本戸土地改良組合は、平成18年度から国、県と連携して、地域の宝である「カワバタモロコ」の保全に向けた取り組みを進めている。

景観の取り組みとしては、輪中堤は平成15年度輪中之内町の「輪中景観」が文化庁の「文化的景観」の重要地域のひとつに選ばれている。当地区の輪中堤は、町の最北に辺り1.6kmに及ぶ。輪中堤防沿いには、6,000株のアジサイを植栽し、輪中の景観美化の保全のための草刈りや植栽の剪定、清掃活動を行っている。また、農業としては、平成19年度には減農薬と化学肥料を30%削減した「ぎふグリーン農業」の登録を行い、平成21年度には農事組合法人を設立し環境にやさしい農業として水稲防除は、ポジデブリスト制により、有人ヘリ防除から無人ヘリ防除へと平成21年度より導入転換が図られ飛散防止など環境に配慮した農業経営を目指している。水稲は、ハツシモ1品種のみの作付であるが、地球温暖化にかかる気温上昇により、収穫適期幅が短縮傾向にあり、収穫時期の作業集中が課題となっている。この為、早植、粗植により収穫時期の前進化を図ると共に、減農薬減化学肥料の取り組みである、ぎふグリーン農業による栽培を実施し、環境への配慮と共に食の安全・安心を確保する努力をしている。農業環境規範に対しても積極的に取り組み、稲わらの鋤込み、小麦の基肥を緩行性肥料で施用し、肥料の排水路等への流亡を軽減している。また、浅水による代掻きなどを実行し水環境向上に努めている。

7. その他事業実施の効果による新たな取り組み

(1) 余剰労働力の活用方法について

高齢者の余剰労働力もあることから、露地野菜の導入を図り労力の活用の場、雇用の場を提供する。

(2) 新たな雇用の場の創出

現在は、サラリーマン3名を中心にオペレーターを確保し、農繁期は一部組合員の応援により営農組合を運営している。今後は定年帰農者の増大が見込まれオペレーターとして担い手を養成していきたい。また、高齢者等の余剰労働力も有り、地区外の農地も含め農地の高度利用を行い、露地野菜導入を検討し労働の場、雇用の場を提供していきたい。

8. 行政や関係者が「事業計画、施工、利活用など」において苦労した点

町としては、事業を実施する合意を得るにあたり、組合員数54人中、半数が地区外者であり労力を要した。一方、工事を進めるに当たり担当割はしたものの兼業農家のサラリーマンがすべてであり、特定の責任者に管理が集中し苦労をかけた。又、事業を進める営農活動、地域環境保全活動を有機的にかからめる必要があり、地域住民協議会、本戸5Hプロジェクトチーム（農地・水・環境保全向上対策）の結成及び理解と共に参加率の向上に苦労した。

9. 周辺地域への波及効果及び将来の展望

当土地改良組合は、平成17年度より農地・水・環境向上活動の一環として事業区域に隣接する輪中堤で、地区住民を先導し約20種類のアジサイを約6,000本植樹し、平成21年度からは「あじさいまつり」として地域の活性化に取り組んでいる。

土地改良組合が中心となって、除草、施肥、選定の手入れを行い、ようやく昨年辺りから人々の目を楽しませる様になったため、アジサイロードと命名した。今年は、小学生の写生大会が開かれるなど年々盛んになってきた。町は、小さな地区が始める祭りですが、町おこしの起爆剤として成長すれば、と期待している。



ブロッコリーの収穫



地域の特産品として健康食品
「おからドーナツ」の開発



子供たちと桜並木に巣箱を設置



魚の隠れ家



マコモU字溝の設置



アジサイの植栽